



レンジャーになりたい



令和5年度入省予定
環境省総合職自然系 内定者の声

はじめに

この度は、令和5年度版環境省総合職自然系『内定者の声』をご覧いただきありがとうございます。本資料は環境省自然系を志望する方々を主な対象として令和5年度入省予定の総合職自然系内定者の内定に至るまでの体験談について内定者自身でまとめたものです。また、本資料は環境省HPでも公開されており、環境省にOB・OGがいない方や、遠隔地にお住まいの方、学業仕事の多忙で説明会等にあまり参加できない方にも、公平に有益な情報を提供することを目的としています。

環境省自然系職員(レンジャー)とは、日本全国に34ある国立公園や野生動植物の保護管理、外来生物への対策など、自然環境に関連した業務に従事する国家公務員のことをいいます。過酷な自然環境で業務を行うための体力や、地域住民などとのコミュニケーションの能力を必要とし、さらには北海道から沖縄・小笠原まで全国への転勤もあるという職業ですが、本資料の作成に携わった内定者は、このようなレンジャーという職業に対し高い志と意欲を持ち、採用されました。

令和5年度の内定者は、大学新卒、院卒、社会人経験者、民間就活との併願者などさまざまな就職活動上のバックグラウンドを持っています。本資料が国家公務員や環境省、レンジャーを志望する方々や、自然や環境に関わる仕事に興味のある方々などへの試験対策や進路選択の一助になれば幸いです。

令和5年度 環境省総合職自然系 内定者一同

～表紙の写真～

内定者有志から集めた写真です。右上から時計回りに

1. 乳頭温泉/十和田八幡平国立公園
2. ヤマセミ/大雪山国立公園
3. 北岳/南アルプス国立公園
4. アカネズミ/磐梯朝日国立公園
5. 三宅島雄山/富士箱根伊豆国立公園
6. 中部山岳国立公園
7. オゼイトトンボ/尾瀬国立公園
8. アオウミガメ/小笠原国立公園
9. 支笏洞爺国立公園

目次

基礎情報	3
内定者の概要	6
内定者からの情報	7
A さん	7
B さん	12
C さん	15
D さん	18
E さん	21
F さん	25
G さん	28
H さん	32
受験で使った参考書一覧	36
内定者へのアンケート	38

基礎情報

* 令和4年度 国家公務員総合職試験および内定までの流れ

注意! 令和5年度以降は試験の日程が早まることが人事院から報告されています。

受験する際は日程を国家公務員試験採用情報 NAVI にてご確認ください。

(国家公務員試験採用情報 NAVI : <https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>)

日程	内容	備考
2/1	受験案内のHP掲載開始日	
3/18-4/4	申込受付期間 (インターネット)	
4/24	第1次試験日 午前：専門試験 (多肢選択式) 午後：基礎能力試験 (多肢選択式)	服装自由 翌日HPに解答掲載
5/6	第1次試験合格者発表日	HPに掲載 第1次試験合格通知書 (第2次試験の日時・試験場の通知)
5/22	第2次試験日 (筆記試験) 午前：専門試験 (記述式) 午後：政策論文試験 ※ (大卒のみ)	服装自由 人物試験 (院卒は人物試験と政策課題 討議試験) の日時・試験場の通知 (大卒：当日配布、院卒：後日メール)
※ 政策論文試験：課題文と資料が与えられ、小論文形式で解答します。(過去問は請求可能)		
5/24-6/10	大卒：第2次試験日 (人物試験 ※)	日時指定制、変更は原則不可 スーツ (クールビズ推奨)
6/2-6/10	院卒：第2次試験日 (人物試験、政策課題討議試験 ※)	同上
※ 人物試験：人事院が行う面接官3名対受験生1名の面接で、時間は一人20分程度です。 基本的には当日提出する面接カードに沿って質問されます。 ※ 政策課題討議試験：政策論文試験と同様に課題文と資料が与えられ、個人でレジュメを 作成後、5~6人1組で意見発表・討議をし、試験官3名がその様子を 評価します。(過去問は請求不可)		
6/13-6/21	総合職自然系の官庁訪問予約受付期間	訪問者カード作成 電子メール予約(合否不明でも予約可)
6/20	最終合格発表	HPに掲載、合格通知書
6/22-6/24	官庁訪問 第1クール	Web面接 スーツ (クールビズ推奨)
6/27-6/29	官庁訪問 第2クール	対面面接 (Web面接通過者対象)
7/5	内々定解禁	

* 環境省のお仕事について

環境省の職員は事務系、理工系、自然系の3つに分かれています。

自然系職員（通称レンジャー）の業務内容等については、自然系（総合職・一般職）の採用情報 TOP ページに掲載されている FAQ や動画をご参照ください。

（自然系（総合職・一般職）採用情報 TOP ページ：

https://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_3all/index.html）

* 試験区分

総合職自然系は、大卒程度試験、院卒者試験いずれも「森林・自然環境」「化学・生物・薬学」の2つの試験区分から採用されます。令和5年度入省予定者8名の内訳は、森林・自然環境（大卒）が3名、森林・自然環境（院卒）が5名でした。試験区分によって入省後の業務内容が変わることはありません。

また、試験区分（森林・自然環境、化学・生物・薬学）及び卒業区分（大卒程度試験、院卒者試験）の選択は採用の可否に全く影響しません。

国家公務員総合職試験の詳細（試験内容、配点、出題分野等）や最新情報については、「国家公務員試験採用情報 NAVI」の受験案内一覧をご参照ください。

（国家公務員採用試験受験案内一覧：<https://www.jinji.go.jp/saiyo/siken/jyukennannnaichiran.html>）

* 官庁訪問

◆ 官庁訪問とは？

官庁訪問とは、志望する省庁に採用してもらうためのいわゆる『採用面接』です。国家公務員試験の人物試験と同様に面接カードを提出し、それに沿って面接が行われます。人事院が実施する国家公務員総合職試験に最終合格すると、「採用候補者名簿」に名前が載ることになりますが、最終合格＝採用ではありません。官庁訪問こそ志望省庁から採用されるための最後にして最大の難関とも言えます。（採用候補者名簿の有効期間は、これまで最終合格者発表日から3年間でしたが、2023年実施の試験からは5年間に延びることが発表されています。）

総合職の官庁訪問は、訪問開始日以降、第1クール～第5クールまでの日程（クール制）で行われ、その後、内々定解禁という流れになります。原則として1つのクールにつき同一省庁への訪問は一回で、通過すれば次のクールに進むことができます。官庁訪問の詳細については、下記をご参照ください。

(総合職試験(院卒者・大卒程度)採用までの流れ:

https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo/sougou/saiyo_sougou02.html)

官庁訪問では複数の志望省庁を訪問することになると思います。通常は志望度の高い省庁から順に訪問しますが、2日目以降の訪問を理由に採用されないということはありません。官庁訪問の日程やルール等は、毎年人事院から発表されますが、次のクールの訪問日が省庁側から指定される場合と、こちらが選べる場合があるなど、各省庁によって具体的な進め方が異なります。どの省庁を何日目に訪問するか事前に計画しておきましょう。また、遠方の方はかなり長期戦(約2週間)になるため、ホテルや飛行機の手配などを早めに行うことをおすすめします。

◆環境省総合職自然系の官庁訪問について

令和4年度の総合職自然系の官庁訪問は個人面接のみ、第1クールと第2クールで延べ2日間実施されました。第1クールはWeb面接で、全員2回の面接を受け、通過者には3回目の面接がありました。何日目に訪問するかは官庁訪問の事前予約時に希望を出すことができ、面接開始時刻は事前予約完了後にメールで通知されます。第2クールは第1クールの結果通知メールで指定された日時に環境省本省を訪問し、対面形式で2回面接が行われました。

※上記の内容は全て令和4年度の情報です。最新の情報や詳細については人事院や自然系(総合職・一般職)の採用ページ、あるいは必要に応じて採用担当者に確認してください。

※令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で第1クールはWeb面接でしたが、令和元年度(平成31年度)までは第1クールから環境省本省で面接を行っており、初日のみ先着順、2日目以降は事前予約が必要でした。定員は1日あたり20名程度ですが、面接順は採用の可否に全く影響しません。

内定者概要

以下の表には内定者の試験の受け方や趣味などが整理されています。次章のインデックスにご活用ください。

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん
卒業区分	院卒	院卒	大卒	院卒	院卒	大卒	院卒	大卒
試験区分	森林・自然環境							
大学での専攻	酵素遺伝子工学	地形学	生態系管理学	神経科学	魚類生態学	景観生態学	獣医学	農業水理学
一次試験選択科目	森林環境科学	森林環境科学	森林環境科学	森林環境科学	造園学概論	造園学概論	森林環境科学	森林環境科学
	木材成分利用	森林資源化学	森林資源化学	森林資源化学	造園計画(都市公園)	造園計画(都市公園)	森林資源化学	森林資源化学
	造園計画(自然公園)	造園計画(自然公園)	造園計画(自然公園)	森林生物生産科学	造園計画(自然公園)	造園計画(自然公園)	造園計画(自然公園)	森林生物生産科学
二次試験選択科目	森林科学	自然環境 公園緑地	森林科学	森林科学	自然環境 公園緑地	自然環境 公園緑地	自然環境 公園緑地	森林科学
趣味・特技	読書、音楽鑑賞 バードウォッチング 美術館・博物館巡り	鉄道旅 映画鑑賞 テニス	読書 旅行 博物館巡り	読書 映画・芸術鑑賞 旅行	生き物の採集・観察 写真、車・バイク 旅 etc.	バードウォッチング サイクリング 野球観戦	旅行 散歩 映画鑑賞	登山 スノボ 海外旅行
子供の頃の夢	イルカのトレーナー	阪神の四番	動物園の飼育員	科捜研の女	医師	アンパンマン	先生	動物博士
好きな動植物	イルカ シギ・チドリ類	ゴンズイ エイ	カエル クマ	ジョウビタキ サギソウ ツクシシャクナゲ	タガメ、ゲンゴロウ ルリモンアゲハ	キツツキ科鳥類 特にアオゲラ	オオサンショウウオ	オオカミ

内定者からの情報

志望動機や試験対策・官庁訪問等の体験について内定者が書きました。

Aさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】 修士課程修了見込

【学年・性別】 修士課程2年・女性

【大学での専攻科目】 酵素遺伝子工学

【試験区分】 森林・自然環境（院卒）

【一次専門選択科目】 森林環境科学、造園計画（自然公園）、木材成分利用

【二次専門選択科目】 森林科学に関する基礎

【参加した説明会・回数】 インターンシップ（修士1年・10月）、令和3年度女子学生霞が関インターンシップ、OB訪問、自然系WEB説明会や霞が関OPENゼミなどの説明会（計16回）

【併願先】 文部科学省、林野庁、シンクタンク、環境省自然系一般職

(2) 志望動機

様々な関係者と共に制度策定に取り組むことで時代や地域社会と調和した自然共生社会の実現を目指したいと思い、環境省を志望しました。幼い頃から自然や生き物を身近に感じて過ごしてきた経験から、近年彼らを取り巻く環境が急速に変化していくのを見て「豊かな自然や生き物たちを未来に繋ぐ仕事がしたい」と思うようになりました。進路について考え始めた初期の段階からレンジャーの仕事に魅力を感じていましたが、その後 NPO 法人で実際に湿地環境と鳥類の保全に向けた活動に携わったことで地域の活動においても法律・制度の果たす役割が大きいことを強く感じ、環境省の自然系職員として制度面を整えることで地域の活動を支え、生物多様性の全国的な回復に繋がっていきたいとの思いに至りました。

(3) 体験記

●勉強方法

・試験のスケジュール

私は修士1年のときに総合職試験（大卒）に合格し、官庁訪問への参加資格（3年間有効）をもった状態で修士2年時に総合職試験（院卒）を受けました。1年先に受験し、合格したことで気持ちに余裕をもって翌年の試験や官庁訪問の準備を進めることができましたと感じています。

・過去問請求

過去問請求は手続きを始めてから受け取るまでに約1ヶ月かかったので、早めに取り寄せることをお勧めします。私は現行の試験区分になった平成24年度から9年分の過去問を取り寄せました。

【1次：基礎能力試験】

試験を受ける前年の10月頃から対策を始めたのですが、当時学部4年で卒論の実験に追われ、2月までは数的推理と判断推理の対策に絞って参考書（新スーパー過去問ゼミ）を解き進めていました。卒論が終わってからは時間を計って過去問を解き、本番のペースでどれだけ解けるか試すとともに文章理解等の対策も行いました。知識分野は取れる問題だけを確実に取ろうと割り切ってあまり対策に時間をかけませんでした。本番はとにかく時間が足りないので解く順番や1問あたりにかける時間を予め決めておくと思いいます。

【1次：専門多岐選択式試験】

こちらも基礎能力試験と同様に10月から対策を始めたものの、本腰を入れて勉強に取り組めたのは卒論が終わった2月以降でした。知識がほぼゼロに近い状態からスタートした科目もありましたが、とりあえず過去問を解き、出てくる用語や政策については周辺知識まで広く調べて徹底的に覚えるということを3、4年分繰り返したところ比較的安定して点が取れるようになりました。調べる際はなるべく複数の参考書やHPにあたり、様々な表現・観点に触れることで、体系的に知識をつけていけるよう意識していました。自分の好きな方法でコツコツ覚えていくのがいいと思います。私は単語帳を使うのが好きなので調べたことは大きめの単語帳にまとめ、移動時間なども利用して覚えていました。

【2次：専門記述式試験】

1次試験後に過去問を解き始めました。似たような分野が繰り返し出題されているので過去問ベースで対策を進めていくのがいいと思います。2次の記述は1題あたり200点満点で採点される*ので、本番はとにかく自分が知っている知識を全て詰め込む気持ちでA3裏表の解答用紙に隙間なく記述しました。試験後に結果を見てみると手応え以上に点数をいただけていたので、たくさん書いてみるということはやはり大事であるように思います。余るだろうと思っていた試験時間は結局全然余らず、3時間半ほぼずっと書き続けていたので、速くきれいにそして長時間文字を書くことにもう少し慣れておけばよかったと思いました。

※国家公務員ナビ 専門試験(記述式)の素点の算出方法：

https://www.jinji.go.jp/saiyo/siken/heikin/shikenc1_heikin.pdf

【2次：人物試験】

人物試験が初めての対面面接だったので、入退出時のマナーを本で確認しました。面接カードのこれまでの経験・体験を記入する部分は各項目3行しかなく、エピソードをどの程度簡略化するか迷いました。結局、各項目150～180字程度にまとめましたが、かなり字が小さくなってしまったのもっと短くまとめた方が良かったのかもしれませんが。本番では緊張のあまり受験番号を逆さまから読むというハプニングを起こしてしまったものの、面接自体は突拍子のないことは聞かれず、面接カードに書いた内容の深堀りのような形式だったので特に答えに困ることはありませんでした。面接官の方も聞きながら聞いてくださるなど穏やかな雰囲気だったので、自分が話しやすいエピソードを選んで書くと良いと思います。

【2次：政策課題討議試験/政策論文】

・政策論文

2次は配点比率の高い専門記述試験に勉強の時間を割き、政策論文は足切りにかからなければそれでいいと割り切っていたのであまり対策をしませんでした。インターネットや参考書で政策論文の組み立て方を調べた後、過去問を2年ほど解いて本番に臨みました。時間内に小論文を形にできればきっと大丈夫だと思います。

・政策課題討議試験

この試験は課題文と資料を読んで個人でレジュメを作成する前半部と4～5人で意見を交わしまとめる後半部に分かれています。レジュメは事前にまとめ方を決めていましたが、

それでもあまり時間に余裕がなく最後の方はかなり走った字で書くことになってしまいました。後半のディスカッションパートは特に対策をせずに臨みました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

インターンシップで現場の重要性を感じたため、その後、地域で湿地環境と鳥類の保全をしている NPO 法人に入り、週末はその活動に参加していました。この経験がレンジャーを目指すうえで1つ大きな転換点になったと感じています。実際に湿地再生・鳥類調査に携わったり、侵入初期の特定外来生物の防除を試みたり、市民・行政・民間と様々な立場から保全に関わっている人たちの思いに触れたりといった経験から得た気づきはどれも作業に参加することでしか得られないものでしたし、法律や制度がどう現場に繋がっているのかも垣間見ることができました。これらの経験を経て、生物多様性の保全に自分がどのような形で関わっていきたいのかという方針が定まったように思います。

●官庁訪問

間違いなく緊張すると思っていたので入念に準備をして臨みました。準備 8 本番 2 という言葉がありますが、本当にこれに尽きると思います。訪問者カードを書いて友人にも見てもらった後、それを客観的にみながら質問を細かく考え、自分の考え・気持ちを整理してきました。文字に書き起こすと面接の直前にもパッと見返して落ち着けるのでおすすめです。面接では自然系に関わる質問とパーソナルな質問が半々といった感じでしたが、いずれも自分の体験や経験と紐付けて伝えるということを意識していました。様々対策していましたが、やはり予想していなかった質問というのは来るものです。私は最終面接で突然ピアニストの反田恭平さんについて聞かれたとき頭が真っ白になりかけました。こんなときは特に何かの資質を問われている訳ではないと思うので、素直に自分の考えを話せばきっと大丈夫です。また、今年は第 1 クールが WEB 面接だったので第 2 クールで初めて他の参加者のみなさんに会うことができました。待合室ではみんなで談笑しながら面接を待つことができたので気持ちがほぐれた状態で最終面接に向かえたと思います。

●アドバイス、メッセージ

環境省のインターンシップでは職員の方の横にテーブルをもらってそこで業務体験をするため、実際の職場の雰囲気を感じることが出来ます。(いろんな生き物の名前が飛び交っていてわくわくしました。) 内容も要望書に沿ってオーダーメイドのような形で組んでいただき、自然系という仕事に対する解像度が上がるとともに、新たな視点に多々気づかき

れた本当に充実した1週間だったと思います。インターンシップはおすすめです。

専門外から目指したところでなれるのだろうかという不安はありましたが、それ以上に環境省自然系の業務内容や自然との関わり方に強い魅力を感じたためレンジャーを目指すことに決めました。自然系は政策の出口が身近なところにあるので気持ちさえあればいくだけでも自分で現地に行って体感・勉強できるというのが良いところだと思います。目指し始めてすぐの頃はレンジャーという存在が夢くらい遠いものを感じられていましたが、就職活動を終えた今となってはバックグラウンドがレンジャーっぽくなくても諦めずに行動していくことで誰にでも道が開ける可能性はあるのだと感じています。

思いがけずとても長い文章になってしまいましたが、最後までお読みいただきありがとうございました。ひとつでも参考になる部分があれば幸いです。皆様が後悔のない就職活動を送れますよう、健闘をお祈りしています！

Bさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】 修士課程修了見込

【学年・性別】 修士2年・男

【大学での専攻科目】 主専攻－地形学、副専攻－自然保護学

【試験区分】 森林・自然環境（院卒）

【一次専門選択科目】 森林環境科学、森林資源科学、造園計画（自然公園）

【二次専門選択科目】 自然環境・公園緑地

【参加した説明会・回数】 地方事務所でのインターン、オンライン説明会（10回）

【併願先】 国土交通省、環境省（一般職）、建設コンサル

(2) 志望動機

学業や旅行で全国各地を訪れる中で、日本の美しい風土と豊かな文化・暮らしを守りたいと考え、自然の保護と利用に関わる職を志望していました。大学4年生の秋にレンジャーの仕事を知った時は、現場での業務に興味を持ちましたが、インターン等の経験を通して、自然の保護と利用の両立にはエコツーリズム推進や担い手・財源の確保など、様々な課題が山積しており、解決には国の制度から見直す必要があることを学びました。そこで、現場と本省を行き来しながら虫の目と鳥の目の両方を養い、「自然環境」に関連する幅広い政策課題について多角的に考えることができる、総合職自然系を志望しました。

(3) 体験記

●勉強方法

【1次：基礎能力試験】

受験年の1月から1日3時間ほど勉強しました。『新スーパー過去問ゼミ』の数的推理、判断推理、文章理解・資料解釈を1周した後、苦手な問題を復習しつつ過去問を計6年分解きました。知能分野は取りこぼしをなくすため、満遍なく解けるように常に時間配分を意識

する練習をしていました。知識分野については、院卒の場合、時事以外の出題数が少ないので『速攻の時事』で時事を頭に入れることに集中し、その他の問題は簡単な問題が出ることを祈っていました。

【1次：専門多岐選択式試験】

受験年の2月から1日3時間程度、過去問のすべての問いの選択肢に正誤解説を作成する作業を計6年分行っていました。「森林環境科学」と「森林資源科学」については『森林・林学白書』と『森林・林業実務必携』、林野庁HPを、「造園計画（自然公園）」は『環境白書』と『自然公園の手びき』、環境省HPを参考にすれば大体の解説が作れたので、挙げた4冊は紙媒体で持っていて良かったです。必須問題は高校の教科書も参考になりました。作業完了後に改めて過去問を解けば、必要な知識を身につけられました。

【2次：専門記述式試験】

1次試験後の4週間で「森林科学」と「自然環境・公園緑地」の選択問題の過去問6年分を解きました。試験内容は1次試験対策をしていればある程度書けますが、実際に解くと曖昧な知識が浮き彫りになるので、数値や制度の名称等の細かい知識を正しくインプットするために過去問を解いたあとに見直しを丁寧に行いました。

試験当日は、「森林科学」を解くつもりで臨みましたが、全くわからない問題が出たため、なんとか筆が進みそうだった「自然環境・公園緑地」を解くことにしました。複数の選択問題を勉強するのは効率的ではないですが、結果的にやっておいて良かったです。

【2次：人物試験】

前年の一般職受験で雰囲気や流れはつかめていたので、あまり時間はかけず、友人に面接カードの添削をしてもらって内容を詰めました。面接カードは各項目字数が限られているため、どうまとめるかが重要にはなりますが、本番で明るく素直にハキハキと受け答えをすることの方が大事だと考え、当日の朝は、会場近くで友人と朝食をとり、口と脳のウォームアップをしてから面接に臨みました。

【2次：政策課題討議試験/政策論文】

どういう流れかを把握するのみで、特に対策はしませんでした。ディスカッションはインターンやゼミで慣れていたので、円滑に進められました。ただ、短い時間でのレジюме作成に失敗し、稚拙なレジюмеを披露することになったので、予めどういう形でまとめるかくらいは考えておけば良かったという後悔があります。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

周りの志望者と比べて自然環境に関わる経験が少ない自覚があったので、自然環境について学べる場に自ら飛び込んでいく姿勢で院生生活を送っていました。幸い、副専攻として自然保護について学ぶことができ、里山保全や遺産保護の現場で活動する方々とお会いして、自分が自然保護とどう関わりたいかを考える機会に恵まれました。環境省以外の立場の方ともお話できたのが良い経験になりました。

試験や面接の時期は、過去の日記や授業ノートから自分が今持っている考えを整理したことが訪問者カードの作成に活かしました。白書を読むよりも重要な時間になったと思います。気分転換で趣味に没頭する時間も大事でした。研究をしていないと秋冬に泣きます。

●官庁訪問

訪問者カードの草稿を5月中旬から練り、面接百戦錬磨の友人に添削を頼んで内容をブラッシュアップしました。並行して自分の想いのたけを伝えるための自己分析と、自分の言葉で話すための問答の想定を徹底しました。

Web面接ではweb会議室が立ち上がりず焦っていましたが、気持ちをリセットできてからは、楽しくおしゃべりをするような感覚で対話することができました。職員の方からもかなり話してくださるので、他省庁と比べてカジュアルな雰囲気が進みました。

対面での面接はとても緊張感がありますが、面接の控室で一緒になった人たちとお話でき、緊張を共有して少し落ち着きました。最終面接は全体的に手ごたえがなく、短めで面接終了を告げられてから帰宅するまでの記憶がありません。良かった点を強いて挙げると、「大坂なおみ選手についてどう思う？」という想定外中の想定外の質問にもそれっぽい回答ができたことでしょうか。等身大の自分だったことは確かです。

●アドバイス、メッセージ

私はレンジャーを志してから多くの学びを得ましたが、一番強い想いはやはり原体験の中にありました。その想いを軸として、今後も自分の世界が広がっていくと信じています。これを読んでくれている方は、この時点でレンジャーに相当な魅力を感じているでしょう。そのきっかけとなった感動が一番の原動力になります。将来の選択に正解はありませんが、自分に正直になって走り続ければ、納得できる形に近づいていけるはずです。自分のために、自分を信じて、納得するまでやり遂げてください。

少しでも役立つことがあれば嬉しいです、陰ながら応援しています！

Cさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】 学士課程卒業見込

【学年・性別】 学部4年・男

【大学での専攻科目】 生態系管理学

【試験区分】 森林・自然環境（大卒）

【一次専門選択科目】 森林環境科学、森林資源科学、造園計画（自然公園）

【二次専門選択科目】 森林科学に関する基礎

【参加した説明会・回数】 自然系業務説明会・4回

【併願先】 林野庁、国家一般職（林学）

(2) 志望動機

幼いころから海や山に出かける機会が多く自然や生き物が好きになり、高校生の頃には自然に関わる仕事に就きたいと考えるようになっていました。大学に入りサークル活動や卒業研究を通じて野生動物管理に携わる方々と接する機会があり、市民団体や地方自治体が保全や管理事業に関わる意欲を生み出す根源は国の政策であると感じました。地域と本省を行き来しながら、自然環境に関わる諸課題を拾い上げ政策で携わっていくといった、多様な次元でアプローチできることを魅力に感じ総合職自然系を志望しました。

(3) 体験記

●勉強方法

【1次：基礎能力試験】

年明け頃から少しずつ参考書を用いて勉強を始めました。数的処理と判断推理の分野が問題数も多く苦手であったため重点的に対策をしました。その他の知識分野は範囲が広く対策をしても効率的でないと感じ過去問のみで対策しました。4月に入ると研究室も忙しくなり始めたため、週末に時間を作って過去問を解いていました。また試験時間がシビアだと考えていたので、過去問を解く際には時間配分や捨て問の判断も意識していました。

【1次：専門多岐選択式試験】

基礎能力試験と同様に年明けから勉強を始めました。学科の専門科目と重なる部分が多かったので、対策期間は短めかもしれません。方法としては過去問を解いては分からなかった問題をノートに書きだし、『森林・林業白書』や『森林林業実務必携』、環境省・林野庁のホームページにある情報をまとめることを7年分繰り返しました。選択科目は範囲が膨大で対策時間が足りないと感じたため、過去問を3年ほど解いた時点で得意なものに絞って集中的に取り組んでいました。

【2次：専門記述式試験】

1次試験終了後に対策を始めました。過去問を5年分解き、わからないところは森林白書や1次試験で作ったノートを利用して確認していました。1次試験の対策がそのまま役にたったように感じます。また『森林・林業白書』の特集ページなどに取り上げられている最近のトピックを背景から現在の課題、今後の展望まで説明できるように対策していました。こちらも選択問題は早々に絞って一つしか対策していませんでしたが、本番に傾向が違う問題が出てヒヤッとしました…。せめてもう二つは対策しておいてもよかったかもしれません。

【2次：人物試験】

1次試験終了後に面接カード作成を始めました。民間就活等を一切していなかったのでかなり苦労しました。もう少し早めに始めておくべきだったと反省しています。大学のキャリアセンターや就活をしている友人にアドバイスをもらいながら面接カードの作成や模擬面接を数回行ってもらいました。本番は面接カードに沿って終始穏やかな雰囲気で行われました。緊張せず受け答えすることが出来れば大きな問題はないと思います。

【2次：政策論文】

時間をかけて対策はしませんでした。過去問を一度解いてみて、問題形式と時間配分等の把握をしておきました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

あまりマルチタスクが得意ではないので、卒業研究と試験対策のバランスに気を付けて過ごしていました。結果的には同時進行で取り組むことでよい気分転換になっていたと思います。また毎回の結果に一喜一憂せず試験終了後は切り替えて次の対策に進んでいました。結果が出るのは時間がかかるので、考えても仕方がないことは気にしないのが精神衛生上良いと思います。また月に1回は遠出するなど気分転換も忘れないようにしていました。

●官庁訪問

面接は人事院面接同様に訪問者カードをもとに進むので、なによりもカードの準備が重要だと思います。自分は2次試験終了後から準備を始めましたが、かなりギリギリでした。本番ではここまで来ることが出来たのがラッキーなのだから、面接も楽しもうという心持で臨みました。しかしいざ部屋に通されると緊張でタジタジになってしまい、手ごたえは全くありませんでした。結局のところ面接で何を評価されているかはあまり分からないものなので、難しいことですがあまり緊張せず面接官と対話をする意識で臨むのが良いかと思っています。

●アドバイス、メッセージ

公務員試験の期間は長く、周りの人の進路が決まっていく中で焦りや不安を感じることもあるかと思います。そのようなときは自分が環境省でやりたいことを考えてみたり、パンフレットを眺めたりして現実逃避をすることをお勧めします（私もよくパンフレットを眺めて時間を溶かしていました）。この内定者の声もそんな気分転換の一助になれば幸いです。最後までお読みいただきありがとうございました。

Dさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】大学院修士課程修了

【学年・性別】既卒2年目・社会人・女性

【大学での専攻科目】神経科学

【試験区分】森林・自然環境

【一次専門選択科目】森林環境科学、森林資源科学、森林生物生産科学

【二次専門選択科目】森林科学に関する基礎

【参加した説明会・回数】学生の頃に数回

【併願先】なし

(2) 志望動機

幼い頃から庭に野鳥が来るような自然の多い田舎で育ち、様々な生き物と今後も共生していけるよう地球環境を大事にしたいと漠然と思いながら過ごしてきました。大学では興味の赴くままに環境とは関係のない学問を専攻していましたが、就職活動時に大学で開催された公務員説明会で環境省の説明を聞き、私がやりたかったことはこれだったんだと強く思いました。結局、当時は違う道に進みましたが、地方公務員として勤務する中で、機械的に環境規制を守ることも大事ですが、社会や国土、経済のあり方全てに影響を与える環境問題を解決するためには、地方自治体や企業、国等の他組織間で共通の環境への意識を醸成していくことも重要だと感じました。理工系とも悩みましたが、地方公務員として現場近くで勤務したことで比較的現場も近い自然系で、生物多様性の保全や自然を活用した地域振興、経済との両立に貢献したいと考えました。

(3) 体験記

●勉強方法

現職がある中での試験対策でしたので、平日はあまり勉強できず、週末にまとめて勉強をしていました。試験前年の11月頃から勉強に着手しました。平日は隙間時間で林業白書を読んで知識を定着させつつ、年が明けてからは毎週末、基礎と専門の両方の過去問を計時し

て1年分解いていました。英語試験はTOEICで25点の加点をもらいました。

【1次：基礎能力試験】

数的処理・判断処理が苦手だったので、文章理解と資料解釈は満点をとるつもりで重点的に対策していました。問題を早く解く感覚を忘れないように、一日一問でも触れるように心がけていました（勉強できなかった日も多々あり）。時事問題については日頃から新聞を読んでいたのである程度は大丈夫だろうと思っていましたが、実際に自己採点してみれば正答率が悪く、「あまり関心のない記事は流し読んで、結局見たい記事しか見ていなかった。偏りのない視点で社会を見られていないじゃないか！」と終わった後で反省しました。時事問題まで効率よく徹底的に対策しようと思えば「速攻の時事」等使用するのも良いと思います。

【1次：専門多岐選択式試験】

大学での専攻的には「化学・生物・薬学」で受験することも検討しましたが、専攻と被る問題が少ないうえ、広い出題範囲を満遍なくカバーするには時間がかかると考え、全くの専門外でしたが「森林・自然環境」で受験しました。まず過去問5年分を一問ずつ分析しエクセルにまとめ、問題の傾向を把握したうえで林業白書や森林実務必携を読み込んでいきました。調べたことは付箋に書いて林業白書の関連ページに貼る等していました。

【2次：専門記述式試験】

1次試験の合格通知があった後から勉強を始めました。知識をアウトプットして書き出す練習のために過去問を3年分解いて、足りない知識はその都度調べました。

【2次：人物試験】

初めの志望動機は緊張してもよどみなく話せるように覚えておきました。それ以外は話す内容をしっかり覚えておくというよりは、面接官と対話する意識で臨みました。対話する中で自分の話に矛盾が出ないよう軸をしっかり持つように意識しておきました。

【2次：政策課題討議試験】

日頃から新聞で気になった記事をスクラップして、記事や社会問題に対する自分の意見を走り書き程度でも書く、ということをしていました。新聞の読み方に偏りがあったために基礎能力試験の時事問題ではやや失敗しましたが、自分の意見を頭で考えるだけでなく書き出すというのは、政策課題討議試験で議題を出された時にどのような意見を持つかという瞬発力につながった気がします。また、意見を述べる時は資料中にある数字的な根拠を出すこと、感染症対策のマスクやフェイスシールドで声が届きにくかったのでいつもよりはきはき話すことに気を付けました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

平日は現職の仕事を疎かにせず全うするべく試験や面接のことは一切忘れ、休みの日は読書や実家の庭の草むしりをする等いつも通りに過ごしていました。結果が気になったこともありましたが、終わった試験はどうすることもできないので結果が出るまでは楽しく過ごそうという心持ちでいました。大学で専攻していなかった環境や自然等について理解を深めるため、研究者の体験談や小説、簡単な解説書等幅広く、野生動物や自然、環境保全に関する書籍を読む等していました。

●官庁訪問

人物試験と同様に対話する意識で臨みました。なぜ環境省なのか、なぜ自然系なのか、自分はどうかありたいのかを突き詰めて考えました。環境省や自然系のことについてよく勉強し、そのうえで国家公務員として何をしたいのかという確固たる軸があれば、質問に窮することはあまりないように思います。お互い一緒に働きたいと思えるかの価値観の擦り合わせをしているんだという感覚で臨みました。

●アドバイス、メッセージ

学生の頃に一度強烈に志した環境省ですが、現職がある中で挑戦することに迷いはたくさんありました。また、大学で環境関係を専攻したわけではなく、社会人からの挑戦でしたので不安もありました。ですが、折に触れ、幼少の頃からの美しい地球環境や生き物と共生していけるような社会にしたいという気持ちを思い出し、前向きな「やらぬ後悔よりやる後悔」という精神で挑戦しました。独学から始まった試験勉強もやってみれば案外楽しいと思うこともあり、高速道路から林を見た時にちゃんと間伐されているなあ等という視点ができたりして面白かったです。バックグラウンドが環境と関係なくてもそこに興味を持って

くださる職員の方もいらっしゃいましたし、経験から得た考え方を元に揺るがない軸を作っていくことが大切だと感じています。少しでも参考になれば幸いです。

Eさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】修士課程修了見込

【学年・性別】修士2年・男

【大学での専攻科目】生物圏情報学（魚類生態学）

【試験区分】森林・自然環境（院卒）

【一次専門選択科目】造園学原論、造園計画（都市公園、自然公園）

【二次専門選択科目】自然環境・公園緑地

【参加した説明会・回数】オンライン説明会や座談会（11回）

【併願先】国土交通省、林野庁、環境コンサル、JR総合職

(2) 志望動機

私は幼少期から昆虫をはじめとした生物に触れる機会が多く、日本の多様な生物相を後世に残したいと考えるようになりました。特に趣味である水生昆虫の探索を通じて、人間の活動が原因で生じてしまった希少生物の問題の深刻さを実感しました。また、中学生の頃に読んだ本で、巷では悪者として語られる外来生物は、人間の活動により生じてしまった被害者であることを認識しました。これらの問題の解決のためには、個人で動くよりも直接的な政策に関わる組織で働くのが近道だと考えました。生物多様性保全に関わる働き方として当初は研究者という道を考えていましたが、コロナ禍で大学での研究が思うようにいかなかったことや、何かのスペシャリストになるより自然環境分野のジェネラリストになる方が自分には合っていると考え、行政職を志すようになりました。中でも環境省の総合職レンジャーは、種の保存法や外来生物法といった生物多様性保全に資する制度の運用に加え、国立公園のような現場第一線で人と自然をつなぐこともでき、影響力が大きくかつ幅広い自然環境行政に携われる点で最も魅力的だと思い志望しました。

(3) 体験記

●勉強方法

【1次：基礎能力試験】

大学に過去問が置いてあったため、10年分ほどスキャンしてPDFデータにし、クラウドで同じ試験を受ける友人と共有していました。過去問に目を通して問題形式と分量を大体把握しておきました。日本史は最後に勉強してから時間が経ちかなり知識が抜けていたため、空き時間にYouTube「数分で分かる歴史【History Studio】」の動画を視聴したり、友人と過去問の選択肢を吟味したりしました。それ以外対策はあまりしなかったのですが、得点率で半分を切ってしまい過去問演習はしておくべきだったと後悔しました。多少自信があっても、過去問を数年分解いてみて問題に慣れておくことをおすすめします。

【1次：専門多岐選択式試験】

・必須問題

受験年の4月に入ってから対策を始めました。まず必須問題の過去問を数年分解いてみて、出題傾向や自分の弱点を掴みました。いわゆる「理科の問題」といった類の問題については、高校時代の教科書やインターネットの検索サイトを活用して、知らなかった単語や概念を自分で説明できるようにすることを目指してノートにメモをしつつ復習しました（時間が無く几帳面でもなかったため雑記帳のような感覚でメモをしていました）。高校の教科書は基礎的な内容が分かりやすくまとまっているので一読すると良いと思います。植物の種の特徴に関する問題は、植物の図鑑やインターネット上のサイトを参照して復習したほか、図鑑片手に植物園などへ出かけて葉の特徴などをなるべく自分の目で確かめました。林業に関する問題は、最新版の森林・林業白書を読み込むことで対策しました。短い時間で成果をあげるために、森林・林業白書は「概要」と「全体」を使い分けました。前者は普段読み物として勉強するために、後者は前者の記述が分かりにくいときや過去問の復習時など詳細な解説が欲しいときに使いました。

・選択問題

レンジャー志望ということもあり選択問題で造園計画（自然公園）を選ぶことは決めていましたが、残りの2科目は森林科学系の科目1～3と造園系の2科目のうちどれを選ぶか迷いました。これらの科目も初めに最新年度の過去問を解きましたが、いずれも同じような感触だったため、対策のしやすさで選ぶことにしました。私は森林科学を専攻していなかったため予備知識が浅く、森林・林業白書の全体版を読み込む時間も残されていなかったため、

比較的対策しやすそうに感じた造園系 2 科目を選ぶことにしました。選択科目の勉強も必須問題と同様に、過去問を解いてみて分からなかった部分やその関連事項について参考書やインターネットサイトを参照し、ノートにメモを残すという方法を取りました。科目 7. 造園学原論・造園材料では『造園学概論』（朝倉書店）や『ミヤケン先生の合格講義 1 級造園施工管理技士』などの書籍が、試験に出てくる要点をおさえて役に立ちました。科目 8. 造園計画（自然公園）では、環境省 HP の政策-自然環境・生物多様性のページにある政策紹介が非常に役に立ったほか、『自然公園の手びき』（最新版を買うべきだが入手できずメルカリで旧版を購入）も資料集として役に立ちました。科目 9. 造園計画（都市公園）では国土交通省 HP の政策・仕事-都市のページにある主な施策の紹介が、試験内容の多くをカバーしており役に立ちました。

選択肢形式の問題に共通して言えることですが、よく読むと常識的に考えておかしいことを述べている選択肢や、断定する表現を含むもの（誤答とは限らないがその可能性は高い）が多々あるため、知らない単語があっても焦らず冷静に選択肢の文章を読んでいくと良いと思います。

【2次：専門記述式試験】

1 次試験に合わせて科目 3：自然環境・公園緑地に関する基礎を選択しました。1 次試験終了後に対策を始め、過去問の解答作成を行いながら知識のブラッシュアップを行いました。また、過去問 8 年分の出題分野を列挙して傾向を掴み、勉強する分野選びの参考にしていました。

【2次：人物試験】

簡潔に記した面接カードのエピソードを、面接時に 1 分程度で説明できるよう口頭で話す内容を考えました。また、想定される質問を考えてそれに対する答えをあらかじめ考えておきました。民間就活での面接経験が役に立ちました。

【2次：政策課題討議試験】

インターネットで試験形式や注意点を確認した以外、特別な対策はしませんでした。民間就活などでグループディスカッションをした経験があれば、討議を進めやすいと思います。試験本番では、資料を読むのに時間を割き過ぎてレジュメが醜いものになってしまったため、余裕をもってレジュメを作れるよう時間配分を考えておくべきだと感じました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

学生最後の1年ということで、適度に就活関連の事にエネルギーを割きつつ、悔いを残さないよう趣味にもしっかりと時間を費やしました（研究は少々おろそかにしてしまいましたが）。就活に限った話ではありませんが、失敗してもそれを引きずらずに気持ちを切り替えてゆくことが大切だと思います。趣味に時間を割くのは良い気分転換となりました。

●官庁訪問

友人に訪問者カードの添削や面接練習の相手をしてもらいつつ、想定される質問とそれに対する答えをよどみなく話せるように心がけました。

本番ではせっかくの機会なので環境省以外にも国土交通省と、林野庁にも訪問しました。結局いずれも第1クールか第2クールで落ちましたが、他省庁の職員の方とのお話ができたことで環境省をより広い視点で見ることができるようになり、良い経験となりました。

なお、本年度は環境省の第1クールの面接を受けるためにはインターネット上での予約が必要でした。私は初動が遅れ2日目の訪問となりましたが内定を頂けたので、1日目に訪問できなくても不利になるわけではないと思います。面接当日は緊張した上に、オンラインでは面接中にPCがフリーズするトラブルにも見舞われましたが、面接官の皆さんと自然環境に関する話題を共有できたときに面接を楽しいと感じたのが印象に残っています。

環境省本省での面接の日（本年度は第2クール）は待ち時間が長かったので、日比谷公園で生き物を眺めながらリラックスして過ごしました。

●アドバイス、メッセージ

英語の民間試験による加点はぜひ利用しましょう。私は日本では間に合わず海外で TOEIC を受けたのですが、恥ずかしながら勉強不足で加点ライン未満の点数を取ってしまいました。加点がある場合の安心感はかなり大きいので、早めの対策と受験をお勧めします。

また、私は受けた民間企業は全落ちで、官庁訪問が背水の陣という状況でしたが、(良くも悪くも) 楽観的な性格であることや、元から環境省レンジャーを目指す強い意志があったために乗り切ることができたと思っています。ポジティブシンキングと意志は大切です。

長くなってしまいましたが、お読みいただきありがとうございました。この体験記がレンジャーを志す皆さんの参考になれば幸いです。応援しています！

Fさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別】4年・男

【大学での専攻科目】景観生態学

【試験区分】森林・自然環境

【一次専門選択科目】造園学原論・造園材料、造園計画（自然公園）、造園計画（都市公園）

【二次専門選択科目】自然環境・公園緑地に関する基礎

【参加した説明会・回数】自然系のオンライン説明会3回ほど

【併願先】国土交通省、独立行政法人、大学院進学

(2) 志望動機

高校生の頃はまちづくりや都市開発に興味があり、将来もその関係の仕事をしたいたいと思い現在の大学に進学しましたが、大学在学中に生態学や造園学など自然や生き物に関わる学びに触れる機会があり、自然環境に興味を持つようになりました。幼い頃から自然の豊かなところで育ってきたため元々生き物には興味があり、大学在学中は趣味としていたバードウォッチングに熱中していました。当時アルバイトで勤務していた環境系のコンサルでこれまで趣味の域を出なかった鳥の知識や経験を活かすことができ、本格的に自然系の仕事に就こうと考えるようになりました。そのような中、学部3年次に磐梯朝日国立公園の温身平を訪れる機会があり、国立公園やレンジャーの仕事に興味を持つようになりました。その後は国家公務員になったゼミの卒業生の話を聞く機会や環境省の説明会などの機会を通じ、環境省の自然系を強く志望するに至りました。

(3) 体験記

●勉強方法

【1次：基礎能力試験】

前年に国総を受けた先輩から基礎能力試験は時間勝負だと言われたので、ひたすら過去問で早く回答する練習をしていました。また、過去問を解いていて明らかに英文読解と数学が課題だということが分かったので、高校時代に使っていた問題集から似たような問題を探して解く練習をしました。試験当日は、午前に基礎能力試験、午後に専門多岐選択式試験だと思い込んでいましたが、試験開始直前に認識が逆だったことに気づきとても慌てました。

【1次：専門多岐選択式試験】

選択科目は造園系の3分野を選択しましたが、大学ではあまり深く学ぶ機会がなかったため、教科書的な本で基礎から勉強しなおしました。過去問では個人的になじみの薄かった植栽樹種や都市公園関連法令に関する問題に特に苦戦していましたが、外を歩くときに植栽植物を観察する癖や、公園を見つけたときにそこがどのような法令が関係した公園なのか調べる癖をつけて生活するようになったところ、実際に見たり調べたりした経験が問題を解く際に活かせるようになりました。また、専門多岐選択式試験は基礎能力試験に比べ圧倒的に時間の余裕があるので、本番では解き終わった後に何重にも見直しをしました。

【2次：専門記述式試験】

過去問を数年度分解いて出題形式や出題傾向に慣れるようにしました。加えて、私は字が汚い方なので、意識的にきれいな字を書くように努めました。

【2次：人物試験】

時間も短く変わった質問をされることもないと聞いたため特に対策はしませんでした。面接カードに書いたことを言葉で伝えるイメージトレーニングのようなことはしました。

【2次:政策論文】

政策論文試験は本番まで何の対策もしませんでした。成績開示で足切りのぎりぎりだったことが判明したので、出題形式や傾向くらいには慣れておいた方がよかったと思いました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

環境省を志すようになってから、旅行や調査で国立公園などの自然保護区を訪れた際にゾーニングや法的規制などを意識して巡るようになりました。ただ自然や生き物が好きなかただけでは見えにくい、法や保護の観点から自然を見ることができるようになり、ここでの経験は試験や面接に少しは活かしたような気がします。これまではただ何気なく見ていた景観を、解像度を上げることでより深く知れた気になりました。

●官庁訪問

第1クールのオンライン面接は3日目に受けました。2日目に受けた国土交通省の面接で機材トラブルがあり調子が狂ってしまったので、面接前に機材と通信環境のチェックを念入りにしました。当日3回ある面接のそれぞれのタイミングはメールで通知されるのですが、待機中おなかを壊してトイレに行っている間にメールを見逃してしまい、申し訳ないことに3回目の面接をとばしてしまいました。オンラインならではのトラブルやミスでドキドキしましたが、時代が悪いと開き直ってそのあとも冷静に受け答えできたように思います。

第2クールの対面面接は2日目に受けました。2日目ということもあって同じタイミングで面接を受けた人は私を含めて3人しかいませんでした。そのため待機時間は少なかったのですが、待っている間は雑談をしていました。面接ではあまり想定していなかった質問が来て少しびっくりしました。あまり面接などの場面で緊張する方ではないですが、第1クールも合わせた5回の面接のうち最後の1回はやはり緊張しました。

●アドバイス、メッセージ

早めに、余裕を持って臨むことが大事だと思います。私の場合、公務員試験の受験を決めたのが受験前年の末で、本格的な勉強は年明け後から始めたので、かなり本番までの時間が短く大変でした。国総の試験という意味では1次試験が最大の難関だと先輩から聞いたので、落ちて元々のつもりで1次試験、特に専門多岐の勉強にウェイトのほぼすべてをかけた。その結果政策論文試験など点数の低い科目を出してしまい、綱渡り状態での就活となりました。

官庁訪問の予約も早めにした方がいいと思います。環境省も国交省も訪問カードの作成と予約を締め切りぎりぎりまでやってしまったため、希望する日程で官庁訪問をすることができませんでした。ちなみに私は林野庁も受ける予定だったのですが、締め切りまでにカードの作成が間に合わず断念しました。1日目に訪問する省庁が第1希望と考える方が多いと思い、最終日に訪問した私は面接で環境省が第1希望であることを強く主張する必要が出てしまいました。

とにかく早めに早めにです。

Gさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】学部卒業見込

【学年・性別】6年・女

【大学での専攻科目】獣医学

【試験区分】森林・自然環境

【一次専門選択科目】森林環境科学、森林資源科学、造園計画（自然公園）

【二次専門選択科目】自然環境・公園緑地に関する基礎

【参加した説明会・回数】インターンシップ、霞が関 OPEN ゼミ、省庁合同説明会、オンライン説明会（複数回）

【併願先】地方公務員（専門職）

(2) 志望動機

私は幼い頃から自然の生き物が好きで、よく近所の田んぼやため池で遊んでいるような子供でした。小学生の頃、図書館で面展示されていたオオサンショウウオの本をきっかけに、人の暮らしの安全を守る一方で、希少な生き物の生息地が失われていることを知り、絶滅危惧種問題に関わる仕事をしたいと考えるようになりました。レンジャーを自分の将来の夢として掲げてから、当初は生態学を専攻したいと考えていましたが、獣医師の資格があれば出来ることが広がるのではないかと思いつき、獣医学部に進学しました。大学で人獣共通感染症などを学ぶ中で、人と動物の健康、環境の健全性は繋がっていると考え「One health」という概念に興味を持ち、自然環境や野生動物の側面から感染症対策にも取り組みたいと考えました。インターンシップを経て、これらの課題に取り組むために、行政として多様な主体をつなげる仕事に魅力を感じ、改めて、環境省を志望しました。

(3) 体験記

●勉強方法

【1次：基礎能力試験】

大学4年生の春頃から、『スーパー過去問ゼミ』シリーズの数的処理と判断推理を少しずつ解いていましたが、試験や実習で忙しくなるとよく中断していたので、実際には出題頻度の高い範囲を一周+間違えた問題を解きなおした程度でした。試験では時間との勝負になるので、効率よく解くことは意識していました。勇み足で他分野の参考書も一通り購入したのですが、知識問題は数が少なく、時間を割くのはあまり現実的ではなかったもので、結局ほとんど手を付けずに終わってしまいました。時事問題は出題数が多かったため、『速攻の時事』を使って、寝る前に目を通したり、実践トレーニング編の問題を解いたりしていました。直前期は専門科目の勉強に必死であり基礎能力の対策には取り組みませんでした。過去問は5年分、時間を計って解きました。

【1次：専門多岐選択式試験】

私はこの専門選択試験で失敗しているので、自戒の念も込めつつ書いておきます。私は、『化学・生物・薬学』で受験しようとして当初考えていましたがあまり勉強が進まず、職員の方の話聞き、科目数や比率を考慮した結果、5年生の11月に受験科目を『森林・自然環境』に変更して勉強し始めました。専門は比重が大きく2次試験でも使うことを踏まえても、もっと早く考えておけばよかったと思います。方法としては、どの科目も過去問を解き、電子ノートに類似する問題ごとに分けて解説やまとめを作成し、空き時間に復習していました。森林分野の勉強は『森林・林業実務必携』と『森林・林業白書』を中心に、自然公園分野は環境省のホームページなどで調べるのが中心でした。いずれもカバーしきれない部分は、より詳細な本を大学の図書館で借りることもありました。共通の必須問題対策としては、高校生向けの地学の参考書や資料集が役に立ちました。

【2次：専門記述式試験】

1次試験と同じように、過去問を解いて関連する情報を調べ、ノートにまとめていました。本番で解いた問題は正解のある問題というよりも、どちらかといえば小論文のような、0点を取るのも100点を取るのも難しいタイプだと感じました。基礎部分を頭に入れておくこともそうですが、最近話題になっていることや試験勉強の中で目にしたものを自分なりにかみ砕いておくと、筆が進みやすくなるのではと思います。

【2次：人物試験】

キャリアセンターで面接対策と、面接カードの添削をしていただきました。練習でうまくまとめられなかった回答を本番までに考えることができますし、改めて自分自身を見つめなおす機会にもなりました。面接カードは、それぞれの項目について3行程度のスペースですが、書いてあることをベースに本番の面接が進行しますので、丁寧に準備しておくとういと思います。雰囲気は和やかで話しやすかったです。

【2次：政策課題討議試験】

大学のキャリアセンターでの練習に一度参加しました。大まかな流れやレジュメを作成する体験ができたことは大きかったと思います。意識したことはサークルなどでミーティングをするときとそこまで変わりません。また、私は個人的な興味もあって総務省の情報通信分野の政策ワークショップに2回ほど参加しました。大学で政策について語り合う機会は限られていますし、意見交換自体も良い刺激になりました。他省庁でも話すトレーニングにはなると思うので、興味があれば参加してみるとよいかもしれません。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

かなり切羽詰まっていたこともあり、4月は研究室を半日お休みにしていただいて、午前中は研究をして午後に勉強する生活をしていました。精神的にはお互いに気分転換にもなっていて良い塩梅でしたし、新鮮な分野を学べるのが楽しくもあったのですが、現実的には勉強不足でした。さながら大学受験ですが、直前期に焦らないためには、自分に合った戦略を立てておくことは重要だと思います。心がけたことは、正直であることです。以前、合同説明会で、第二希望の省庁に内定を頂いた方の話を伺う機会があり、その方が「働いている職員さんなら、どんな人間がその仕事に向いているかをわかっている。第一志望に拘るか迷ったけれど、その方の判断を信じようと思った」とお話しされていたことが、印象に残っていました。私も、もちろん自分が納得できるように努力はして、最後はどっちに転んでも、見てくださった方の判断を信じようと思っていました。

●官庁訪問

2次試験の面接同様、あらかじめ準備しておく調査票から話が進行します。志望動機や取り組みたい課題、政策など、頭の中である程度形にはなっているとしても、言葉にするとうまくまとまらないこともあり、準備に思った以上に時間がかかりました。面接を通し、自分の考えの中でここは違ったなと感じた部分もあり、まだまだ考え足りなかったと思います。また、私は他省庁の官庁訪問もしましたが、分野は違えど、行政官としての姿勢や施策を考える上での基本など、勉強になることが数多くありましたので、時間が許せば他にも回ってみるとよいと思います。

●アドバイス、メッセージ

公務員試験は長期戦で、周囲に目指す仲間がいないこともあると思いますが、全国には必ず同じように頑張っている仲間がいるはずですよ。2次試験の後、あるいは官庁訪問で、似たような興味関心を持つ皆さんとお話するのも楽しいひとときでした。ぜひ楽しみにしていただくとよいと思います。

就活を通じて振り返ってみると、ちょっとしたことから始まった経験が自分の軸になってくれたり、ヒントをくれたりしました。様々なことに挑戦できるよう、アンテナを張り巡らせておくのと役に立つと思いますし、私自身努力したいと改めて思います。

最後に私事ですが、官庁訪問当日に日比谷公園で冷静に志望動機を読み返しているつもりでいつもしっかり緊張してしまっていたところ、東京に来た友人が会いに来てくれ、肩の力を抜いて庁舎に向かうことができました。本当に感謝です。友人は偉大ですので、持ちつ持たれつ大事にしましょう。

お付き合いいただきありがとうございました。今後レンジャーを目指す方の、あるいはそうではない方でも、何かしらお役に立つことを願っています。

Hさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】 大学卒

【学年・性別】 社会人・男・25歳

【大学での専攻科目】 農業水利学

【試験区分】 森林・自然環境(大卒)

【一次専門選択科目】 森林環境科学、森林資源科学、森林生物生産科学

【二次専門選択科目】 森林科学に関する基礎

【参加した説明会・回数】 4回

【併願先】 なし

(2) 志望動機

小さい頃から自然に囲まれて育ち、将来は自然を守る仕事に就きたいと漠然と思っていました。その思いは変わらず、成長し、大学時代にインドネシアにおける環境問題の1つである泥炭湿地の開発について直接現地に赴いて、研究を行っていました。そこで自分がいかに表面上の知識だけで物事を考えていたか思い知らされました。大量の二酸化炭素の排出等により、泥炭湿地の開発が問題視されている一方、開発の恩恵を受け豊かになっている住民の姿を目の当たりにして、環境問題の二面性について痛感し、人と自然の共存を目指すことに人生をかけたと思いました。

一度は、自分が育った地域に恩返しをしたいという思いから違う道に進みましたが、国立公園や説明会に訪れる中で、人と自然の共存を目指し、それぞれ熱い思いを持っているレンジャーの方々の姿をみて、自分自身のやりたいことを再認識し、現場、政策二つの面から環境問題に取り組むことができるレンジャーを志望しました。

(3) 体験記

●勉強方法

勉強は、前年の7月ごろから徐々に勉強を始めましたが、働きながら独学での勉強でしたので非常に時間がなかったです。平日は最低2時間、休日はできるだけ勉強するようにしていましたが、家に帰るのが深夜になることも多く、参考書をよだれで何回も濡らしました。

しかし、勉強漬けと仕事の日々は、心の健康に悪いかないと思ひ、息抜きを適度に入れ、メリハリをつけるよう生活していました。土曜は朝から晩まで遊んで、日曜日と平日の夜はしっかり勉強するようにしました。

【1次：基礎能力試験】

この分野はたくさん得点を取ろうとすると時間が無限に飲まれ、他の勉強が全くできないので、足きり以上をとればいいと考え、あまり力をいれませんでした。

最初に総合職の過去問2年分を解き、自分の得意・不得意を明らかにし、得意な分野の文章理解・資料解釈は、総合職・一般職の過去問を使って勉強し、不得意な分野の判断・数的推理は、総合職・一般職の過去問と参考書を使って勉強しました。時事問題は、職場の通勤時間が往復2時間あったので、ラジオやYouTubeを聞きながら、勉強していました。他の分野は勉強時間の割に得点が低く、解ければラッキーと思って勉強しませんでした。

【1次：専門多岐選択式試験】

基礎能力試験より配点が高く、専門記述試験に繋がるため、多くの時間を費やしました。最初に、森林・自然環境、林学の過去問を3年分ずつ、森林・林学実務必携と森林林業白書を主に使いながら、選択肢の解答解説を作っていました。

上記の作業で、ある程度の概要がつかめてきたら、必携と白書を読みこみ、ノートにまとめていくことで、知識の定着を図りました。森林林業白書は、iPadに入れて使うと、関連するワードの検索や移動時間に気軽に読むことができるので便利でした。最新の白書を準備して、読み込むことは必須だと思います。

【2次：専門記述式試験】

過去問5年分を解きながら、1次試験と同様なまとめを行いました。白書に書かれてあるトピックスとその関連部分についてはよく確認しておくと思います。

【2次：人物試験】

面接カードの作成は、簡潔さ、聞かれないことを意識して記載し、面接対策については友人と親に付き合ってもらい相当練習しました。相手への伝え方が磨かれてくるので面接の練習はたとえ自信があっても行うべきだと思います。

【2次：政策論文】

特に日常的な対策はしませんでした。本番で解答時間がギリギリになってしまったので、一度解いて慣れておく方がいいと思います。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

多くの情報に対してアンテナを高く持ち、時間があるときは、色々な国立公園や説明会、イベントに行きました。環境省の SNS 等で紹介された雑誌や HP は片っ端から目を通し、自分の考えや知識を常に更新していくことを意識し、いろんなところに足を運んで自分の目で見て経験することに時間とお金を惜しまないようにしました。

時間が許すのであれば、環境省の方々にお話を聞く機会は絶対取った方がいいと思います。パンフレット等で得られる知識には限界があるので、第一線で活躍されている方々の話を聞くことで自分自身の考えがより洗練されます。また、環境省の方々の熱い思いを聞いた時に環境省に入りたいという思いが強くなりました。

●官庁訪問

官庁訪問は、政策とかの知識より、志望理由、なぜ環境省なのかという自分の熱い思いをいかに伝えられるかだと思います。そのための準備は、これで落ちても悔いはないと思うまで行いました。自分の志望理由の根拠、実現するにはどのような政策・事業があるのか、なぜ環境省なのかは整理しておいたほうがいいです。また何回も、友人、家族に面接の練習に付き合ってもらいました。どんなに面接が得意な人でも、官庁訪問は独特の緊張感があると聞いていたので、いつでも最高のパフォーマンスをこなせるよう反復して面接の練習を行いました。

訪問者カードは、友人に添削をお願いしました。難しい内容を記載するとその部分の質問で時間いっぱいになってしまい、自分の伝えたいことが伝えられなくなってしまうので、わかりやすい文章を徹底しました。

最初の Web 面接では、志望理由、行いたい業務等聞かれた後は、訪問者カードに沿って質問されていく流れでした。職員の方々は、優しくお話が上手な方ばかりだったので、面接と

いうことを忘れ、楽しくお話ししたことを覚えています。

Web面接合格後の環境省での面接は、とても緊張しましたが、待合室で同じ志の仲間と話すことでリラックスできたので、助かりました。自分の考えを見直す機会にもなるので、邪魔にならない範囲で話しかけることをお勧めします。

最終面接は、この国家総合職試験で一番の難関でした。志望理由、なぜ環境省なのかをこれまで以上に深く聞かれ、何を話しても全く手ごたえを感じず、自分の中では相当焦りました。最後のインドネシア語を話せますかという質問に、ビールの頼み方と愛してるだけ話せますと回答し、大滑りして面接が終了したときは、落ちたと思い泣きながら銀座まで歩きました。しかし、面接中は、どんなに上手くいなくても、萎縮せずに自分らしさを忘れずに話すようにしていました。面接は、自分をいかに理解してもらおうかだと思います。

● アドバイス、メッセージ

いろんな状況で、将来に迷っている方も多いと思います。私自身も、転職について何度も迷いましたが、どの選択が正しいとは誰にもわからなく、数十年後今の自分を振り返って後悔しない道を選ぼうと思い、この選択をしました。迷って進まないより、案外進んでみると迷いがなくなってこの道が一番だと思えてくるかもしれません。この内定者の声が誰かの一步を後押しできれば幸いです。

使用した参考書・資料一覧

太字 : 2人以上が使用していたもの。

 : 特にオススメしたいもの。

○基礎能力試験

- ・ **新スーパー過去問ゼミ** (数的推理、判断推理、文章理解・資料解釈)
- ・ **国家総合職教養試験過去問 500**
- ・ 国家一般職教養試験過去問 500
- ・ **速攻の時事**
- ・ 数学の教科書
- ・ 国家公務員試験の合格点ボーダー確認・得点計算フォーム (<https://cepo.site/score-calc/>)
- ・ 数分で分かる歴史【History Studio】 ([YouTube チャンネル](#))

○専門試験

- ・ 高校生物の教科書
- ・ 地球進化学 (古今書院)
- ・ 青木の地学基礎をはじめからていねいに (東進ブックス)
-  新しい高校地学の教科書 (ブルーバックス)
- ・ **ニューステージ 地学図表、生物図表**
- ・ NHK 高校講座 地学基礎、生物基礎 (<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/>)
- ・ Try IT の高校生物の映像授業 (https://www.try-it.jp/k/science_biology/)

森林・林業白書

森林・林業業務必携 (朝倉書店)

- ・ 図解知識ゼロからの林業入門 (家の光協会)
- ・ 造林学 (朝倉書店)
- ・ **ニューフォレスターズ・ガイド** (全国林業改良普及協会)
- ・ 木質の化学 (文永堂出版)
- ・ 森林リモートセンシング 第4版 (日本林業調査会)
- ・ 樹木生理生態学 (朝倉書店)
- ・ 種類・特徴から材質・用途までわかる樹木と木材の図鑑 (創元社)

環境白書

💡自然公園の手びき

💡造園学概論（朝倉書店）

- ・新版 生態工学（朝倉書店）
- ・ビオトープ管理士資格試験公式テキスト 2 級（日本能率協会マネジメントセンター）
- ・植栽大図鑑（エクスナレッジ）
- ・哺乳類のフィールドサイン観察ガイド（文一総合出版）

💡ミヤケン先生の合格講義 1 級造園施工管理技士（オーム社）

- ・各省庁 HP 環境省：「[政策全般](#)」
林野庁：「[キーワード](#)」、「[分野別情報](#)」
国土交通省：「[水管理・国土保全](#)」
農水省、気象庁
- ・国際連合食糧農業機関（FAO）：HP, 「[世界森林資源評価 2020](#)」
- ・EIC ネット (<https://www.eic.or.jp/>)
- ・エバーグリーン 植物図鑑 (<https://love-evergreen.com/zukan>)
- ・日本植物生理学会 植物 Q&A (https://jspp.org/hiroba/q_and_a/)

○面接・政策論文・政策課題討議

- ・せんせいの独学公務員塾 (<https://senseikoumuin.com/>)
- ・速攻の時事
- ・論文・面接で問われる行政課題・政策論のポイント
- ・公務員試験 現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本
- ・公務員試験 現職人事が書いた「自己 PR・志望動機・提出書類」の本

○官庁訪問

- ・環境省 HP
- ・内定者の声（他省庁のものも含む）

💡FRaU ゆっくり冒険ニッポンの「国立公園」

- ・国立公園ごとのパンフレット(環境省から取り寄せたもの)
- ・環境白書
- ・国立公園論
- ・生態系減災 Eco-DRR
- ・説明会などで配布された資料
- ・大学の講義ノート

内定者へのアンケート

Q1. オススメの国立公園とその理由を教えてください！

・大雪山国立公園(Cさん)

雪渓とお花畑が広がる雄大な景色は何度訪れても見飽きない場所。ナキウサギなどの貴重な動物に会えるのも魅力です。

・知床国立公園(Gさん)

夏は緑豊かな自然の中、知床五湖を歩いたのが心地よかったですし、冬は流氷とまた違う楽しみもあります。オオワシや海生哺乳類など、様々な生き物を見る機会もあります。

・磐梯朝日国立公園(D、Fさん)

冬に見た猪苗代湖と遠くに見える山の稜線が美しかった。(Dさん)

温身平周辺のブナ林は動植物が多くて楽しい！本当に心が落ち着くので効果の面でも初めて森林セラピーという概念を理解した思い出の場所。(Fさん)

・中部山岳国立公園(Hさん)

北アルプス一帯を占め、その雄大な山岳景観は、息を呑む美しさだから。

・やんばる国立公園(Eさん)

道を車で流しているだけで固有種をたくさん見ることができるから。ロードキルには気をつけましょう！

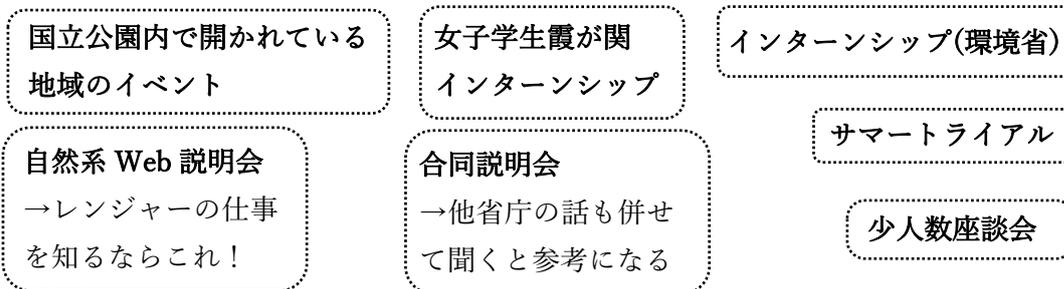
・阿蘇くじゅう国立公園(Aさん)

どこまでも続く草原と山々とのコントラストには心が解放されるような感覚を覚えます。夏もいいですが、秋の金色に輝くススキ野原もおすすめです！

・小笠原国立公園(Bさん)

ヒト含め動植物の生命力が圧倒的で、自然と共生する風土があった。帰りたい場所です。

Q2. オススメの説明会やイベントは？



いろいろな説明会やイベントに参加してみましょう！視野が広がるはずです。

Q3. 面接で聞かれてしんどかった質問は？

- 最初の面接の最初の質問が「何か話したいこととかありますか？」で完全にフリーズした。
- アイスブレイク的な質問：まったく想定外の質問が多く逆に困ってしまった(民間就活をしていなかった所以对策不足ですね...)
- 趣味に旅行と書いたので、旅行ではどんなことをしますか？という質問。どこに行ったことがありますか？とくるかなと思っていたので何を…？と一瞬戸惑ってしまいました。
- 自分の研究内容を現場の仕事でどう活かす？という質問(専攻が自然系の仕事からかなり離れているので難しかった)。
- 虫は得意ですか？という質問。大丈夫な虫もいるし耐えられるが、正直得意ではない。
- 訪問者カードに TOEIC の点数書いてないけど受けなかったの？→点数が低すぎたんです…
- 志望度高そうだけどレンジャーの職員と話したことないの？
- 志望理由の深堀り。

Q4. 失敗談を教えてください！

試験を受ける前に

- 申し込みをサボっていたら TOEIC を日本で受けそびれ、海外で受けたのに勉強不足でひどい点数取ってしまった。

何事も準備は早めに、ですね(自戒)

面接への道中で

- 地下鉄駅で迷いがちで、面接の際も集合時間ギリギリになってしまった。
- 霞が関駅で降りたあと適当なところで地上に上がったら迷ってしまい、到着が集合時間ぎりぎりになった。
- 官庁訪問当日、緊張のあまり受付でありえない体温を申告してしまった。
- 2 次試験の際にオタク全開のクリアファイルに受験票を入れて行ったこと。受付の職員の方にまじまじと見られた。

集合場所への道順は調べておきましょう。
霞が関駅は出口が多いので要注意です！

面接の最中に

- 動作重めの PC で官庁訪問の面接を受けている際、PC がフリーズしてしまった。
- こちらから話題を広げるべき質問を封殺し続けたところ、予定より 5 分以上早く面接を切り上げられた。
- 最後の面接で国鳥を間違えたこと。大変恥ずかしかったです。しばらく引きずりました。
- 官庁訪問で笑いを取りに行ったら大滑りした。

オンライン面接では環境をしっかりと
整えておきましょう！
ときには予想外の質問もありますが
落ち着いて答えましょう

Q5. やっておいてよかったことは？

話を聞く、読む

- 様々な国立公園へ訪れ、レンジャーの方から直接話を聞くこと。
- 自然保護活動に携わる様々な立場の方とお会いすることで、自分が担いたい役割とその理由を明確にできた。
- サークルや研究活動で自然環境にかかわる NPO や行政の方々とお話しする機会を作っていたこと。
- 環境や経済の絡む新聞記事のスクラップ、書籍を読んだこと。

自然関係の活動に参加する

- アルバイトで環境省の下請・孫請業務や民間企業の環境関連事業に関わったこと。
- 地域の保全活動や調査に参加したこと。(現場の視点から法律や制度について考えられましたし、状況の厳しさや保全の大変さも知ることができました。)
- 環境問題・野生動物に興味のある学生団体に活動したこと。学生同士で学び、意見交換をしたことを経て、自分は何をしたいのか、何ができるのかを考える機会になりました。

就職活動の中で

- M1 の時にも試験を受けたこと。
- 民間企業をいくつか受けたこと。結局全落ちしましたが、面接練習や自己分析の良い機会になりました。